

はじめに

現在、上白根中学校は、一般学級数が6学級（小規模校）となっており、横浜市で最も生徒数が少ない学校となっています。今後も小規模校の状態が継続していく見込みです。そのため、『旭北中学校・上白根中学校』通学区域と学校規模適正化等検討部会において、隣接する旭北中学校との間で、上白根中学校の適正規模化に向けて具体的に検討しており、2月6日に第3回検討部会を開催しました。今後も、この部会での検討状況等については、本ニュースを発行し、両校の通学区域内にお住まいの皆さまや保護者の皆さまにお伝えしていきます。

第3回検討部会での決定事項など

- 義務教育学校へのヒアリング結果及び平成25年度義務教育人口推計（一般学級）と実数の比較について説明しました。
- 第4回検討部会では、学校統合を実施するかどうか及び統合するのであれば統合時期について協議することになりました。

第3回検討部会

日時：令和2年2月6日（木）
19時00分から
会場：ひかりが丘地域ケアプラザ1階



1 両校の基礎情報

【施設状況】《令和元年5月1日現在》

学校名	上白根中学校	旭北中学校
開校年	昭和46年(49年目)	昭和59年(36年目)
親校	鶴ヶ峯中学校	上白根中学校
小中一貫教育推進ブロック	四季の森小学校	上白根小学校、白根小学校

【一般学級の生徒数・学級数】【R1】令和元年5月1日現在の実数値（一般学級）※学校裁量により複数学級を実施。
【R2以降】令和元年度義務教育人口推計による推計値（一般学級）

学校名		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	保有普通教室
上白根中	生徒数	131	119	118	120	115	100	82	16
	学級数	6※	5	5	5	4	4	3	
旭北中	生徒数	473	446	414	387	410	390	391	18
	学級数	13	13	13	12	12	11	11	

2 横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針（抜粋）

(1) 適正な学校規模の考え方

教育効果との相関、教員配置など教育指導面における充実や管理運営面、学校施設・設備の効率的利用などから総合的に判断し、次のとおり、適正規模等の範囲を定める。

		11	12	24	25	30	31	(学級数)	
小学校	小規模校	適正規模校		準適正規模校		過大規模校			
中学校	小規模校	準小規模校		適正規模校		準適正規模校		過大規模校	
		8	9	11	12	24	25	30	31 (学級数)

(2) 小規模校対策

小規模校の問題を解消し、教育環境を改善するとともに、効果的・効率的な学校経営を行うために、保護者や地域住民と十分に調整を図り、理解と協力を得ながら、通学区域の変更等を行い学校規模の適正化を推進する。また、通学区域の変更や弾力化等が実施できない場合や実施によっても小規模校の状態が解消しない場合については、学校統合について検討を進めることとする。

3 義務教育学校へのヒアリング結果について

第2回検討部会において、義務教育学校のメリット・デメリットを説明して欲しいとの御意見をいただきましたので、西金沢学園及び霧が丘学園の両校長にヒアリングを行い、第3回検討部会でご報告しました。（※現在、横浜市には、西金沢学園及び霧が丘学園の2校の義務教育学校があります。）

<p>児童生徒について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間同じ人間関係の中にいるため、安定した学校生活を送れる。 ・中一ギャップは全くないが、一般的な学校よりも高校進学時のギャップが大きい。 ・縦割り活動は1年生から9年生まで全員で行う。 ・異学年交流が活発なため、中学部生は小学部生の憧れの存在となり、思いやりの心が育ち、「自己有用感」が極めて高くなる。 ・年に1回程度、小学部生と中学部生と一緒に給食をとる日を設けている。 ・個別支援学級でも年間30日程度、小学部と中学部と一緒に活動を行っている。 ・部活動は5年生または6年生から参加できる。早期に始めることで技術向上に繋がる。 ・中学部に進学するとき、希望する部活動がないことを理由に指定地区外就学許可制度を利用し、転校するケースもある。
<p>カリキュラム・運営等について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生から一部の教科（音楽や美術など）を教科担任制にしている。 ・小学部と中学部の教員が乗り入れ授業を行うことがあるため、時間割を1週間ごとに検討する必要が生じるなど、教員の負担が大きい面もある。 ・小学部と中学部が同一校舎であることから、中学部が試験を行う時には集中できるよう別校舎に移動している。 ・義務教育学校では教育カリキュラムをある程度は自由に作れるものの、転校生が来る可能性もあるため、先取りした授業は難しい。（義務教育の範囲内に限られる。） ・特色の一つである英語教育は、義務教育学校になる前から、20年以上かけて取り組んできた歴史がある。地域に学校の特色が浸透するのにも時間がかかった。 ・義務教育学校としての教育効果を十分に発揮するには2学級以上必要だろう。
<p>教職員・PTA・施設等について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員配置は一般の小学校や中学校と同じ。ただし、小学部と中学部を繋げる役割として准校長が配置される。 ・学校内の業務分担は、小学部のことは小学部の教職員で、中学部のことは中学部の教職員でやっている。 ・指導や教科についての教職員による研究会は小学部・中学部合同で実施している。 ・小学部生と中学部生では発達段階が異なることから、伝え方や指導方法も異なる。 ・小学部の学級担任が持ち上がりで、中学部の学級担任を持つこともできる。 ・PTAは小学部と中学部それぞれにおいている。通学安全など中学校のPTAには関係しないこともあるため。 ・小学部の授業で顕微鏡など中学部の備品を利用することができる。 ・小学部と中学部で施設の仕様が異なるため、授業ではグラウンドや体育館などを相互利用できない。

【参考】 開校している義務教育学校の状況

	西金沢学園	霧が丘学園
沿革	平成22年4月 西金沢小中学校 開校 平成29年4月 名称変更	平成22年4月 霧が丘小中学校 開校 平成28年4月 名称変更
一般学級の児童生徒数※	前期課程 469名 後期課程 161名	前期課程 520名 後期課程 289名
一般学級の学級数※	前期課程 16学級 後期課程 6学級	前期課程 16学級 後期課程 9学級

※ 令和元年5月1日現在の実数値。

※ 令和4年度に緑園西小学校と緑園東小学校の通学区域を基本とした義務教育学校を泉区緑園五丁目に設置予定です。現在、開校にむけた準備を進めています。（緑園西小と緑園東小を閉校し、岡津中と名瀬中の通学区域の一部を変更。）

4 平成 25 年度義務教育人口推計（一般学級）と実数の比較について

第 2 回検討部会において、過去の推計と実数の誤差を知りたいとの御意見をいただきましたので、平成 25 年度義務教育人口推計と実際の一般学級の生徒数・学級数をお示ししました。なお、推計値は、当該年度以降の向こう 6 年間の数値を算出しているため、令和元年度（平成 31 年度）までを含む、平成 25 年度義務教育人口推計と実際の一般学級の生徒数・学級数をお示ししました。

学校名			H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)
上白根中	H25 推計	生徒数	192	173	162	142	145	128	141
		学級数	6	6	6	5	5	5	6
	実数	生徒数	192	164	154	136	153	133	131
		学級数	6	6	6	5	6	5	6※
旭北中	H25 推計	生徒数	512	491	482	466	460	444	433
		学級数	15	14	13	12	12	12	12
	実数	生徒数	512	500	486	481	478	467	473
		学級数	15	14	13	13	14	13	13

【H25】平成 25 年 5 月 1 日現在の実数値。

【H26 以降】平成 25 年度義務教育人口推計による推計値。※学校裁量により複数学級を実施。

5 主な発言や説明

（凡例 ☆：各委員からの主な発言 ⇒：事務局からの説明）

⇒（学校規模の適正化等に向けた資料について、事務局から説明しました。）

☆確定するのは来年度ですが、上白根中学校の来年度は、新 1 年生が 1 クラス、新 2 年生は 2 クラス、新 3 年生は生徒数が 40 人未満なので学級編成上 1 クラスですが、2 クラス編成をするという前提で調整していますので、現在のところ、来年度は 5 クラスを予定しています。ただし、転出等で 2 年生の生徒数が減少するということになれば 1 クラスになるなど、3 クラス編制（全学年 1 クラスずつ）となる可能性があります。

☆子ども達が将来にわたって、安心して、すくすくと育つ環境を作るために、部会委員の皆様がどのようにお考えなのか聞きたいです。

☆これから上白根中学校に入学する子どもの保護者や既に通っている生徒の保護者にご意見を聞きましたが、少人数ならではの悩みとして、一人でいくつもの委員会を受けている。係などをやる子が固定されている。部活が成り立っていない。トラブルになったときの逃げ場がない。新しい人間関係が築けない、などの意見が上がりました。初めの 3 つに関しては、統合により良い方向になるのではないかと意見がありましたが、後の二つに関しては、途中で統合となることに不安を感じてしまう面もあるという意見も多く聞かれました。統合に賛成・反対という意見よりも不安の声が多く聞こえました。

☆中学では部活の問題が大きいと思っています。部活が限られていることは、違う中学を選ぶ大きな理由の一つになっているのではないかと思います。生徒数が少ない中で、充実した濃い人間関係を築けることは、そこから外に出たときにも大事なことだと思うので、悪いことだとは思いません。しかし、実際には、高校に行ったときに、大きな規模の学校に慣れるまでストレスがあるのではないかと思います。より多くの人と関わることが大事な時期だと考えると生徒数が少ないと感じます。

☆保護者の声として、「どのようになるのか、どのようにするのか、いつなのか」という疑問と不安の声しか聞こえてきません。結論を早く決めて、情報を公開することが大事だと思います。

☆事務局から学校統合について、改めて説明してください。

⇒基本的に、学校統合する場合には、上白根中学校と旭北中学校が一旦閉じて、新しい学校として、開校する形になります。統合した新しい学校では、これまでの両校の歴史を引き継ぎながら、生徒・保護者、また地域の皆さまとともに新たな学校の歴史を作っていくという形になります。その点も前向きにとらえながら、皆さんで御議論していただきたいと思います。

☆学校統合する場合には、旭北中学校も一旦閉じるという話を聞いたときに、皆さんはつとしたと思います。両校の伝統という話もありましたが、お互いの良いところを出す形にしていければと思います。また、以前校長先生が「単級になったらやりづらいところがある」という話をしていましたが、市や県の配慮で学校統合するまでは40名を下回っても2クラス継続ができるようになればと思っています。

⇒過去の統合では、新しい学校に先生が1名多く配置されます。しかし、統合前に配置されることはありません。ただ、検討部会で、そのようなご意見があり、何とかならないのかという話は、事務局から人事担当部署に投げかけていきたいと思っています。

☆私のまわりの保護者は、学校統合によって新しい学校ができるという考えはしていないと思います。また、「もう旭北中学校と一緒になるのでしょうか」といった、統合ありきの噂が流れており、それが変に子どもに伝わってしまい、不安になってしまったら可哀想に思います。ある程度早く方向性を決める必要があると思います。

☆部活がなくなっても、今は多くのクラブチームがあります。しかし、それでは学校は授業だけの場となり、寂しい学校になると思います。統合するにせよ、しないにせよ、まず学校は部活動をもう少し見直していただきたいです。勉強も大切ですが、スポーツによって心身が強くなり、それが社会に出て役立つのだと思います。統合ありきの会議だと保護者は心配していますが、統合なら統合と部会で早く決めて、その心配を無くせるのであれば、この会議をやるメリットがあると思います。

☆ひかりが丘団地に、空室があるなら隣り合う2部屋を家賃の1.5倍くらいで貸して、若い世帯の人が入りやすい環境を作るのはどうなのでしょうか。

⇒区役所も若い世帯の人が入りやすい環境対策の要望を担当部署にしており、新たに子育て世帯向けの募集を実施した経緯がありますが、市営住宅は、公営住宅法に基づき、住宅に困窮する低額所得者に対する住宅提供を全市的に行っているため、個々の地域課題に対しては限られた対応になっています。

☆限られた対応ということは、団地の中にある学校は、置き去りになってしまうのではないのでしょうか。団地の中にある学校では、同じ状況が今後も生まれてくることを行政はどのように考えているのですか。

⇒市営住宅に限らず大規模団地は高齢化し人口減少しているという課題があります。高度経済成長期に建てられた団地では、当時の子ども達が巣立って人口が減っています。旭区は29年度から大規模団地再生に取り組んでおり、子育て世帯にとっての魅力を高めることが重要だと考えています。

☆別の場で保護者の考えを伺いましたが、先ほど事務局から説明があった統合の形などをご理解いただけていないと感じました。正しく理解しないと、より良いものが出てこないで、少し心配になりました。

☆保護者の方たちは先を見えています。中学校に進学した時に、子どもがどのような学びをできる学校だと良いかを考えると、部活の問題は大きいと思います。部活と一緒に活動する仲間が少ないことや、新しい関係性を築いていく学びが若い時期にできないことを非常に心配しているという話もありました。子どもたちがこれから大人になるまでの間に、ぜひその大切な学びができる場はどんな場かなというのを考えて、前に進んでいただけるといいなと思います。

☆6年生と一緒に給食を食べているときに、「何部に入るの？」と話を振ると、子どもは「サッカーをやっているけど、旭北中はサッカー部がないから入れない」という話が出たりします。ただ、その時に子どもが、「でも上中と一緒にになったらサッカー部ができるかもしれないんだよね」と言ったときに、「あ、そういう捉え方か」と思いました。中学校に進学する子どものイメージとして、部活は大きなウエイトを占めているという印象を受けました。

☆小学校と中学校の一貫校を作って、今ある学校は壊すのではなく、今後児童・生徒が増えたら、再び小学校は小学校、中学校は中学校として使うことはできないですか。

⇒この地区で小中一貫校である義務教育学校を設置することは難しいと考えています。

☆統合するならするで、いつするのかと保護者はとても不安に思っています。また、統合によって通学距離が長くなるなら、私立受験をさせるという保護者もいるのではないのでしょうか。

☆目安を決めて動かないといけないと思います。先ほど受験の話がありましたが、保護者は子どもの将来のためにどうすべきかを考えています。部会としての方向性を出して、今後どうしていくかという話にもっていかないと、いつまでたっても議論の繰り返しになると思います。

☆この部会で方向性を決めなければいけません。また、統合までの準備の期間をしっかりと確保するのがいいのではないかと思います。

☆地域や保護者からの意見や要望を聞いていると、上白根中学校を残したいという思いが強いことが分かりました。ただ、保護者の不安を考えると、早く決めてあげることで、やはり統合は仕方ないと思います。その上で、ひかりが丘がより一層よくなる形を皆様と考えていけるといいと思います。まずは子どものことを第一に考える必要があると思います。

☆学校統合となった場合に、四季の森小学校が不安です。旭北中学校を使用することになると、ひかりが丘地域の学校は、四季の森小学校のみになります。そのことが要因で四季の森小学校の児童数がさらに減る可能性もあります。また、部会として早く結論をだしてあげないと引っ越してくる予定の保護者が悩んでしまうと思います。

☆子どものことを第一に考える必要があると思っていますが、地域への配慮も必要だと思います。今後、検討部会において、統合校が地域にどのように貢献できるのか、学校運営をどうしていくのかなど議論した方がよいと思います。

☆次回しっかり結論を出すために一度持ち帰りたいとのご意見もありましたので、一度お持ち帰りいただき、次回の検討部会で、学校統合を実施するかどうか、統合するなら統合時期をいつにするのかを議論し、意見をまとめていきたいと思っています。

6 検討部会に寄せられた意見及び質問（⇒事務局回答）

- ・学校統合しないと、上白根中学校が学年1クラスになってしまうことは理解し、仕方ないと思いました。それでしたら、校舎は旭北中学校を使用してもらいたいです。明らかに旭北中学校の方が生徒数が多い事、大きな道路をその人数が渡らなくてはならない事、最長3キロ近く歩かなくてはいけない生徒が出てくる事、原則自転車ではなく徒歩による通学となる事、などを踏まえると上白根中学校ではなく旭北中学校の校舎を使用した方がよいと考えます。
- ・検討部会で地域の方々の意見を聞いている様ですが、そもそもが『統合ありき』の検討会ではないかと感じています。今回の検討の流れとして、親校である上白根中学校には戻らず、旭北中学校を使用することになってしまうと感じています。旭北中学校にサッカー部が無いという理由で上白根中学校に来ている生徒もいらっしまったと思います。素人考えではありますが、グラウンドの広さを見ても上白根中学校を使用した方がよいと思います。団地再生の動きがある中で、この地域に中学校がなくなってしまうというのはどうなのかと思います。子ども達の将来の活動等を考えて本気で検討して欲しいです。

- ・今の旭北中学校の環境がとても良いと感じています。仮に、学校統合するのであれば、私立学校に通わせることも検討したいので、早く方向性を出して欲しいです。
- ・50年近い歴史のある上白根中学校が廃校になるのは反対です。ひかりが丘団地、西ひかりが丘団地と大きな所帯の中で、高齢化になって来ている問題もあると思いますが、もっと地域と協力しながら若い世代が住みやすい環境を作って行く事が先だと思います。今後、多家族向けにリフォームし、多くの若い世代が入居したいと来た場合、中学校が無いとなると益々若い世代はこの地域からいなくなってしまうと思います。今は、子どもの人数が少なくなっていますが、もっと長い目でみて検討して欲しいです。
- ・過去の検討部会ニュースなども踏まえ、全てが上白根中学校ベースで考えられているように感じます。なぜ旭北中学校が吸収側にならないのですか。また、想定通学圏のほぼ中心にある旭北中学校を使用せず、端に位置する上白根中学校を使用するのはなぜですか。
 - ⇒ 仮に上白根中学校と旭北中学校が学校統合すると決定した場合には、統合校の使用校舎につきましても検討部会の中で議論していただくことになります。
- ・部会ニュースの中で、影響が大きい旭北中学校側の意見や情報記載が少ないのはなぜですか。
 - ⇒ これまでの検討部会では、上白根中学校の適正規模化に向けた議論が中心のため、上白根中学校に関する意見等が多い状況です。検討部会には旭北中学校通学区域内の関係者が部会委員として参加しておりますので、引き続き両校の部会委員に御議論いただきながら検討部会を進めてまいります。
- ・上白根中学校と旭北中学校、四季の森小学校と白根小学校が統合になると、噂で聞きました。急に統合と言われても困ってしまうので不安です。いつ統合になるのでしょうか。
 - ⇒ 検討部会では、上白根中学校の適正規模化に向けた議論を行っており、四季の森小学校と白根小学校では、学校規模適正化等に向けた検討は行っていません。また、仮に学校統合すると決まった場合には、統合時期についても検討部会の中で議論していただくことになります。
- ・検討部会ニュースや周りからの噂を聞くと、統合が決定しているかの様に感じてしまいます。意見はあるけれどメールするのに抵抗がある方も多いと思います。保護者にアンケートや意見などが書ける手紙などを配って、広く意見を集めて議論してもらいたいです。
 - ⇒ 保護者の皆様をはじめ、地域の皆様からも幅広く御意見をいただけるよう、メールだけでなく、電話やFAXでも受付できるようにしております。

※お寄せいただいた御意見等は、全て検討部会にて報告し、委員の皆様にご覧いただいております。

◆第4回検討部会について ※会議は、非公開とすることを決定しました。

日時：令和2年3月26日（木） 19時00分から 会場：ひかりが丘地域ケアプラザ

◆「旭北中学校・上白根中学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会の経過等について

検討部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからもご覧になれます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/kamisirane.html>



◆事務局（お問い合わせ先）

皆さまからの御意見や御質問を受け付けております。Eメール、FAX又は電話でお寄せください。
横浜市教育委員会事務局 学校計画課

Eメール：ky-asahi2019@city.yokohama.jp FAX：045-651-1417 電話：045-671-3252

